

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第24週 (6/13-6/19) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		24週	23週	22週	21週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/13-6/19	6/6-6/12	5/30-6/5	5/23-5/29	6/6-6/12
			24週	23週	22週	21週	23週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	1	0	3
	咽頭結膜熱	○	18	16	16	21	98
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		67	85	60	60	661
	感染性胃腸炎	○	164	148	146	146	821
	水痘		16	16	9	16	80
	手足口病		1	5	3	1	36
	伝染性紅斑		7	5	2	6	48
	突発性発しん		14	21	19	23	101
	百日咳		0	0	0	1	2
	ヘルパンギーナ		4	2	4	0	10
	流行性耳下腺炎		12	10	20	11	141
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	1	1	0	28
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	↓	7	9	2	7	21
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	1	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	1	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	胸水ADA値の上昇	結核	女性	50歳代	IGRA検査等
結核	男性	80歳代	IGRA検査等	後天性免疫不全症候群	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	20歳代	病原体の検出
結核	女性	10歳代	IGRA検査等	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	梅毒	女性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	風しん	男性	50歳代	臨床決定

・第24週は、結核7件(119)、後天性免疫不全症候群1件(5)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(20)、梅毒2件(14)、風しん1件(3)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第24週のコメント

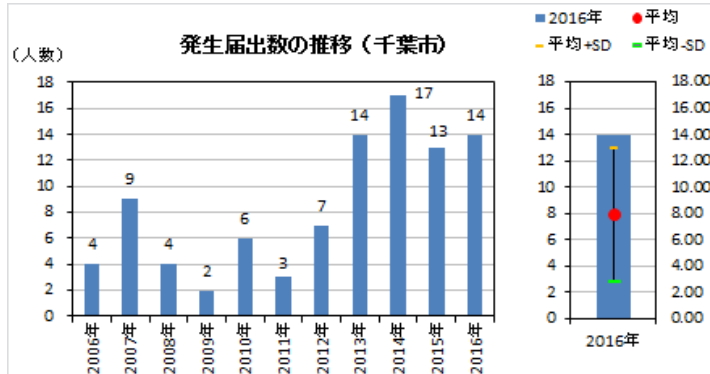
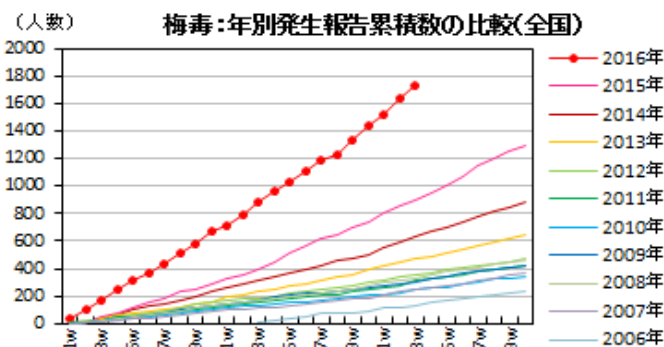
＜咽頭結膜熱＞前週より増加し1.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜感染性胃腸炎＞前週から増加し9.11となった。過去10年の同時期と比べると最多。
 ＜流行性角結膜炎＞前週から減少し1.40となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

■ トピック ■

<梅毒>

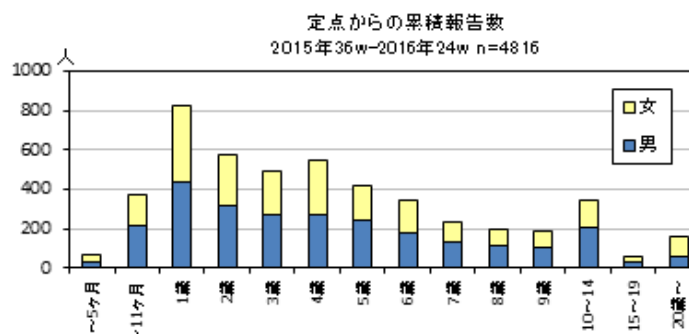
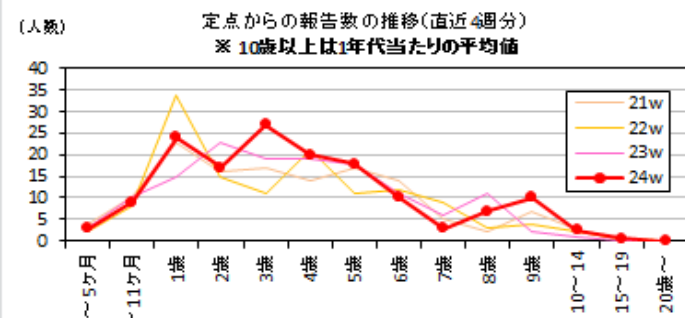
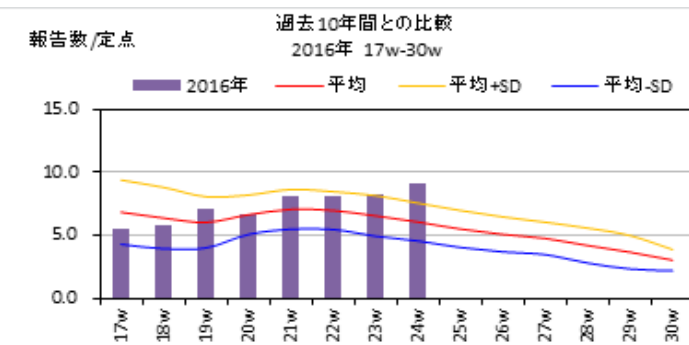
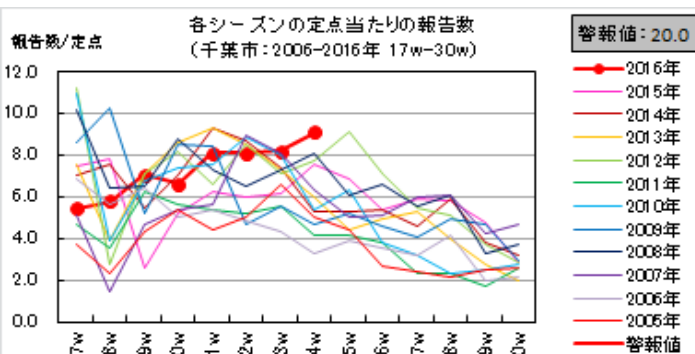
全国レベルの第23週現在の発生届累積数は過去9年の同時期と比べるとおよそ2倍～7倍で最多となっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、大阪府の順に多く報告されています。千葉県は第7位となっています。千葉市では2013年から発生届が増加し、2016年は第24週現在の発生届累積数が14件となっており、過去10年の発生届数と比べると大変高いレベルとなっています。

男女別では、男女同数(共に50%:7名)で、年齢階級別では20歳代(35.7%:5名)が最も多くなっています。感染経路は、性的接触(85.7%:12名)、輸血及び不明(共に7.1%:1名)となっており、性的接触の内、異性間が75.0%(9名)、同性間は0%、不明が25.0%(3名)となっています。また、病型は早期顕症梅毒(I期)(35.7%:5名)、早期顕症梅毒(II期)及び無症状(共に28.6%:4名)、晩期顕症梅毒(7.1%:1名)の順となっています。



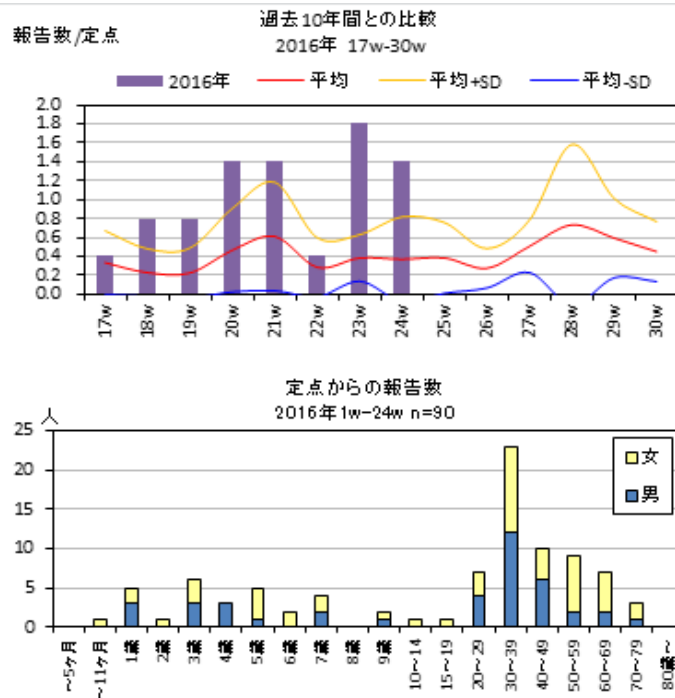
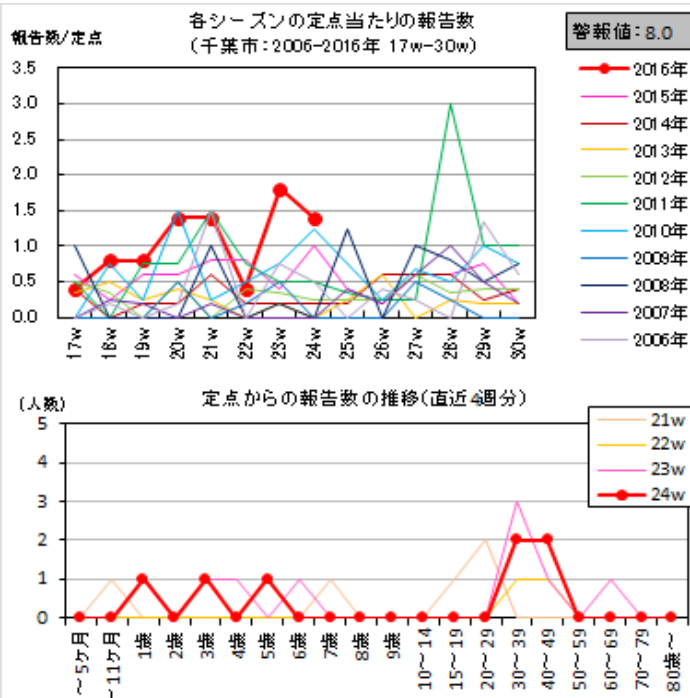
<感染性胃腸炎>

全国レベルの第23週は過去9年の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっています。都道府県別では、大分県、新潟県、長野県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の第24週は前週から増加し9.11となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、若葉区(18.0/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第24週までの累積報告数(n=4816)によると、性別では男性が54.1%(2605名)、女性が45.9%(2211名)で、年齢階級別では1歳(17.1%:822名)、2歳(12.0%:577名)、4歳(11.5%:552名)の順に多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの第23週は過去9年の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっています。都道府県別では、宮崎県、神奈川県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の第24週は前週から減少し1.40となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとされています。区別の発生状況は、美浜区(4.0/定点)で最多で、同区の40歳代で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第24週までの累積報告数(n=90)によると、性別では男性が44.4%(40名)、女性が55.6%(50名)で、年齢階級別では30歳代(25.6%:23名)、40歳代(11.1%:10名)、50歳代(10.0%:9名)の順に多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第23週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、島根県、佐賀県、福島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の第24週は前週より増加し1.00となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(3.5/定点)で流行発生警報開始基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第24週までの累積報告数(n=152)によると、性別では男性が57.9%(88名)、女性が42.1%(64名)で、年齢階級別では1歳(34.2%:52名)、2歳(13.2%:20名)、4歳(12.5%:19名)の順に多くなっています。

